

I 教職員の働き方改革について

1 現状

■伊勢市公立小中学校教職員の長時間労働の実態

- ・時間外勤務の実態と経年変化

一人当たり月 H28年度：40.4時間 → R3年度：24.8時間

■伊勢市公立小中学校の勤務時間外での児童生徒に係る主な業務

- ・教材研究、家庭訪問、学級通信等の作成、成績処理、児童生徒の情報共有、部活動（中学校のみ）

■伊勢市公立小中学校のメンタルによる病気休職の実態

- ・R4年度：6名

- ・主な原因：ストレス障害、うつ病、適応障害

■三重県教員採用試験受験者数の減少

- ・受験者数の経年変化

R3年度採用受験者数：1,977人 → R5年度採用受験者数：1,561人

2 伊勢市としての主な取組（県教委の取組も含む）

- 外部人材の活用
（県費）スクールサポートスタッフ、学習指導員等の配置
（市費）非常勤講師の配置、学習支援員等の派遣
- 時間外労働時間削減のための目標設定
 - ・年360時間を超える時間外労働者 0人
 - ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 等
- 校務支援システム導入による業務の効率化
- 放課後の学習環境等の整備

3 各学校の主な取組

- 定時退校日の設定 ■会議時間の短縮
- 年休取得の推進 ■学習アプリ、ドリルソフトの活用 等
- 中学校部活動（部活動ガイドラインの遵守）
 - ・部活動休養日の設定
 - ・部活動指導員、教育支援ボランティアの活用 等

4 今後の取組

- 今までの取組をさらに推進
- 中学校部活動の地域移行

Ⅱ 休日の中学校部活動の地域移行について

1 国の運動部活動の地域移行に関する検討会議より

■今後の目指す姿

- ・学校の運動部活動では支えきれなくなっている中学生等のスポーツ環境について、今後は学校単位から地域単位での活動に積極的に変えていくことにより、少子化の中でも、将来にわたり我が国の子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保する必要がある。このことは、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にもつながる。

■中学校等の運動部活動の改革の方向性

- ・今後、これまでと同じ形で平日及び休日の運動部活動を維持することは困難な状況にある。こうした中、中学生等のスポーツの機会を着実に確保していくための改革の方向性としては、まずは、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とすべきと考える。

2 伊勢市が目指す将来の中学校部活動の姿

- 子どもたちが自主的・主体的な参加によるスポーツ活動や文化芸術活動に楽しく取り組める機会を確保
- スポーツや文化芸術に親しむ環境を整備し、継続的に体験できる環境
- 学校の働き方改革を推進し、教育活動の質も向上

3 伊勢市の中学校部活動の地域移行の方向性とスケジュール

■方向性（案）

令和5年度から7年度に向けて段階的に移行を進める。令和5年度は、拠点校方式（地域部活動）として、休日の部活動を学校単位でなく、伊勢市として部活動を開設する。運動部活動に限らず、文化部活動に関しても同様に進めていく。

■スケジュール

R5年度の地域部活動をR7年度までに可能な限り地域のクラブチーム等に移行していく

R4年度 部活動あり方準備委員会、関係団体との情報交換会の開催
教職員、児童生徒、保護者へのアンケート実施

R5年度 中学校部活動地域移行検討委員会の開催
拠点校方式（地域部活動）の開設